

N0323

泉南走ろう会

東路先
泉南スポーツ社
0724(83)×653

例会

一月十一日(日) 九時 集合
場所 種河神社

一月二十五日(日)

この日は、十津川マラソンに参加するため例会は中止とさせていただきますので各人で練習を行って下さい。

1. 初詣ラン

泉南走ろう会新年の恒例行事になっている元旦の種河神社、意賀美神社、日根神社の三社詣を来年元旦に行います。集合場所は、種河神社で6時頃スタートします。参加される方は、それまでに集合願います。

2. 大会結果

● 福知山マラソン 十一月二十三日(日)

今年から制限時間が、8分延長されたことで例年よりも参加者が増え、おまけに10kmの部門もありスタートも同じと言うことで、大混雑、又、何時も会場が、工事中で場所も狭く仮設トイレには行列ができ8分以上掛かるような状況でした。

今回参加されたのは、その一週間前に東京女子マラソンの8分台を走られた芝本さん、レースの後家族で天橋立に宿泊された西さん、そして私と会社の友達の4名でした。

因みに、レース結果は、芝本さんが8分台、岡田は9分台、西さんは4時間40分台との事です。

● 龍神温泉郷マラソン 十二月七日(日)

今年、朝の内の冷え込みが厳しく龍神温泉に8時頃着いたのですが、気温はマイナス一度と水たまりも凍り付いていましたが、天気が良く風もなく日の当たる所では暖かく、レース後外でお弁当を食べておられる人もいるほどの陽気でした。今回参加したのは、和田さん、堀池さん、川嶋さん、三隅さん(阪南健走会)、岡田の5名で、当初参加予定の森野さんが、急に都合が悪くなりキャンセルされました。残念ながら今回誰も抽選に当たることはありませんでした。尚、今回レースに出て普段のタイムで走っていることが出来ず悔しい思いをされたようです。

3. 走行距離について

しばらく体調不良と他趣味により練習が、思うように出来ず走行距離書き込みから名前が、消えていました和田さんが、和歌山ベイマラソンでの惨敗を反省、十一月より又、本格的に走り始められた様です。その結果龍神マラソンでは、8分台を切り、又、体重も5キロ減量されたとの事です。この後、十津川マラソン、泉州マラソンに向け練習を続けて頂きたいと思えます。又、芝本さんも完全復帰され練習距離も元に戻された様ですが、故障前の反省を含め少し練習量を減らされているとの事ですが、これで本当に減らされているのでしょうか？。無理をされない様にして下さい。

08年走行距離

氏名		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
芝本 鈴代	月	542	540	369	0	0	0	131	275	538
	累計	542	1,082	1,451	1,451	1,451	1,451	1,582	1,857	2,395
今仁 正義	月	233	188	159	233	357	165	136	179	196
	累計	233	421	580	813	1,170	1,335	1,471	1,650	1,846
堀池 一夫	月	134	103	113	115	89	105	97	154	
	累計	134	237	350	465	554	659	756	910	
栗野原泰正	月	60	80	100	80	70	50			
	累計	60	140	240	320	390	440			
岡田 盛助	月	380	252	192	231	358	281	223	242	300
	累計	380	632	724	955	1,313	1,594	1,817	2,059	2,359
西 和秀	月	130	90	110	90	110	100	110	140	100
	累計	130	220	330	420	530	630	740	880	980
和田 年弘	月	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	累計	—	—	—	—	—	—	—	—	—

10月	11月	12月
515	463	
2,910	3,373	
376	340	
2,222	2,562	
313	287	
2,672	2,959	
—	171	
—	171	



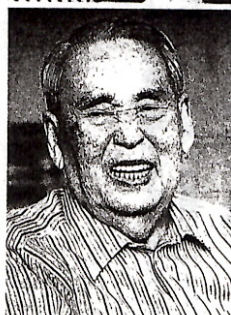
芸能人アスリートとして有名な間寛平さんが、2年半を掛けて地球一周マラソンを計画され12月1日に、千葉県に向けて走り始められたと言う事で話題になっております。その後は3ヶ月掛けヨットで太平洋横断その後アメリカ大陸横断。再び大西洋をヨットでヨーロッパへ。その後もロシア、中央アジアを走り中国へ、そして九州に渡り大阪に戻られると言うとてつもない計画を立てられスタートされました。今後何かの形で情報として放送されると思いますが、頑張って達成されることを願っております。

日常から駆け出せ、私

女が東京を走った②



⑤ 下条由紀子さん(青木半治さん)



は初回から好評だった。

ニッポン jinmyaku@asahi.com

月刊「ランナーズ」編集長、下条由紀子(61)が走りに目覚めるのは72年、広告会社に勤めていた25歳のときだ。
「男性の同僚から『皇居を走ってみない?』と誘われたんです。1周5キロ。やってみようかな」と。

OL生活は何か「ぬるま湯的」、もっと自分の力を試したい。73年、青木マラソンに出る。「走るOL」と新聞で紹介される。退社してフリーライターになり、ランナー取材した。「みんな情報をほしがっている

た。シューズ選び、練習方法、どこでどんな大会があるか。新聞や雑誌を探してもない。だから自分でそういう雑誌をつくらうか」と思いはじめました。
74年、ゴーマン美智子(73)がポストンマラソンで優勝した。下条は翌76年、フリーカメラマン橋本治朗(60)との新婚旅行を兼ねてポストンへ。大会の熱気を肌で感じ、確信した。このテーマはきつと日本にやってくる。
78年、「ランナーズ」創刊。専門誌の草分けとなる。美智子に頼んだ連載「アメリカ通信」

は初回から好評だった。東京で女子だけの国際マラソンが盛んになった。79年の初夏、当時の日本陸連会長青木半治(93)はそんな企画を朝日新聞から打診され、「それはいいね」と即答した。
だが連盟内で反対が相次ぐ。「時期尚早。42キロも走れる女性が日本のごとこにいますか」「徒手空拳で暴虎に向かうようなもの」。青木の説得で開催が決まるが、当の青木も「ちゃんと走れるか、心配しました」。



7月の京都マスターズ陸上で、女子5000mを走った村本みのるさん

この強化合宿と呼ばれたひとりが村本みのる(67)。3児の母で、大阪府守口市でそろばん塾の先生をしていた。
「ランニングをはじめたのは36歳。末っ子が3歳になり、「何か運動がしたい」と思ってた。ちょうど自宅近くの淀川の土手沿いで市民レースがあった。11・5キロを走って6位。走ったあたりは気分爽快でしたね」
翌日から毎朝5時に起き、淀川の土手を走る。5キロ、10キロ、距離を伸ばしていく。「けっこう走れて、どんどんおもしろくなってきたんです」
79年11月、第1回東京国際女子マラソン。前夜、村本はホテルで眠れなかった。「東京の真ん中を走る。テレビ中継まで。なんだか興奮してしまってた」スタートしたら、もう無我夢中。合宿でタイムチェックのしかたを習ったのに、時計を見るのを忘れていた。水をどった記憶もない。日本人最高の7位で国立競技場に帰ってくる。
「競技場をもう1周走ろうとしたら、係員に止められた。もうゴールしてたんですね。いいタイムが出せたのは沿道からのすごい声援のおかげ、と思いましたね」
「ランナーズ」の下条も自ら走り、37位。日本の選手は32人中29人が走りきった。競技場で待っていた浜松は、1人ゴールするたびに「よかったねえ」。涙ながらに抱きしめた。
その目をあつかって青木はいう。「日本女性はほんとうに努力家で辛抱強いと実感した。サッカーとかレスリングとか、いま女性が活躍しているのも、マラソンがきっかけになったんじゃないですか」
村本はいまも走っている。これまでに36回のマラソンをすべて完走。トラックなどで年代別の日本記録を更新し続けている。(杉山圭子)